

1月下旬、東京・永田町の参院議員会館。弁護士の伊藤和子(48)は、過激派「イスラム国」を名乗る組織に捕らわれた後藤健二の母、石堂順子(78)に寄り添っていた。「家族のメッセージをシリアに届けてほしい」。伊藤は知り合いの外国人記者らに呼びかけた。

9年前に非政府組織(NGO)の国際人権団体を設立。女性や子供の権利保護のため、世界中を駆け回る伊藤には困難に直面した時、元気をもたらす歌がある。

松任谷由実の「メトロポリスの片隅で」。司法修習生だった20代のころ、裁判所に通う電車から新宿の高層ビル群を見上げ、「私は夢見るSingle Girl」という爽快なメロディーを心の中で口ずさんだ。伊藤にとって「新しいステージに向かう応援歌」を、「ユーミンの罪」

奮戦 働く女性へ応援歌

心に「メトロポリスの片隅で」

の著者、酒井順子(48)初の「女性総合職」が誕は、企業社会に挑む「女は、企業社会に挑む」の軍歌」に例える。

6割が退職

この曲がリリースされたのは1985年。男性雇用機会均等法が成立し、翌年、多くの企業で

初めの「女性総合職」が生じた。バブルの足音を聞きつつ、恋愛も趣味も手を抜かず、男性と同じようにバリバリ働く「女性の時代」の到来を社会全体が予感した。

戦後70年

歌は世につれ



打ち合わせをする伊藤和子弁護士(左)と(東京都台東区)

均等法30年、企業は制度先行

「この時期を境に急速に進む。パラレルワークに挑戦中だ。」

■幸せの尺度は

この時期を境に急速に進む。パラレルワークに挑戦中だ。松風は「男性は会社組織のピラミッドの中で物事を考えがちだが、仕事や子育て、地域コミュニティなど、距離でいいたいと考える尺度は整備された。だが、等距離でいいたいと考える尺度は多様であっていい」と考える。

松風は昨年10月、長年勤めた博報堂を退社し、中小企業の海外進出を支援する事業を立ち上げた。「夢見る」女性たち

「メトロ」が主題歌の88年のテレビドラマ「意外とシングルガール」。今井美樹演じる主人公は「結婚したら仕事を辞めてほしい」と求める恋人や「担当から女を外せ」とすぐむ取引先との間で葛藤した。

脚本を手掛けたテレビマンユニオン最高顧問の今野勉(78)は「当時、女性は企業の中で、結婚や子育てとの両立に大きな不安を抱えていた」とみた。少子化や晩婚化は

♪私は夢見るSingle Girl

週間チャート1位になった松任谷のアルバム「DA・DI・DA」の唯一のシングル曲だった。ある朝、恋人に別れを告げ、涙もみせずに通電車で都心の高層ビルを目指す働く女性の思いを描き、若い女性たちの心をとらえた。

「一歩」口我の至食「あつこ」ハハ「夢見る」の「力」の「力」の「力」